

絵本活用を目指す絵本研究のために

——学生と学ぶ「グリム童話」——

三木麻子

MIKI Asako

これは、児童教育学科の必修専門科目である『子ども学ゼミ』で「ことば」に関わる児童文化財として、「絵本」をテーマとする「子ども学ゼミC・D」を行う際に、学生が教材としての絵本にいかに関わられるか、試行錯誤している中で行った一つの方法の報告である。

この作業を通して、学生が、自らが対象としている作品群へのアプローチの際に、グリム童話全体の中で、当該作品の享受状況についてある程度の見通しを持って臨めるのではないかとと思われる。さらに新たな方法を試みながら、この考察を継続してゆきたい。

キーワード：昔話、グリム童話、絵本 読み比べ

1. はじめに

2011（平成23）年度より、本学の独自科目として始まった「子ども学ゼミ」は当初、通年科目を二年間受講する必修科目としていた。開始年度、1回生に向けて「子ども学ゼミA」を開講し、翌年は「子ども学ゼミB」を開いて1、2回生が受講し、二年目から2学年でのゼミがスタートした。1回生・2回生が同時に受講することで、異学年が交流する機会の少ない短期大学の弱みを補う意味もあり、筆者のゼミでは、発表や意見交換の場を多く設けていた。一年間を通じて同じ課題に取り組むことで話し合う機会が増え、時には、実習の体験談などを伝えあう場面もあった。

一方で、半期制の科目が増える中で、自由に選択できるゼミが通年であることは、ゼミで学ぶ内容の専門性が深まる利点と、多様な内容を広く修める選択の機会が減るといったマイナス面とがある。また、再履修となった場合もさらに一年間が必要であることから、二年間での卒業のためには、再履修用のゼミを開講する必要も生まれ、2018（平成30）年度より、ゼミの内容によって、半期制と通年制を教員が選択することとなった。

成績は半期ずつ評価されるので、学生は一年間で2つの異なるゼミを経験することもできる。通年形式を

取る教員のゼミでは、原則は前後期同じゼミに所属するが、後期からの参加は認められないものの、後期に半期制を採る教員の別のゼミを選択することも可能であり、選択の幅が広がった。当初は二年間必修であったので、最大四つのゼミを経験することもできるようになり、また、二年間1つのゼミに属する学生もいるようになった。現在では、必修は半期のゼミ単位を2つ1回生で履修することであるが、2回生も、希望者はゼミを続けて受講することができ、専門科目として単位認定される。

また、半期制を導入した後、科目名称を、前期「子ども学ゼミA」、後期「子ども学ゼミB」としたが、従来の方式では、通年「子ども学ゼミB」開講の年度であったために、「B」の内容が、2018（平成30）年度より、「子ども学ゼミA」「子ども学ゼミB」、従前の「A」の内容が、2019（令和元）年度より「子ども学ゼミC」、「子ども学ゼミD」として開講されることとなった。

ゼミを行う指針は、他の保育専門科目とは異なり、学生が自分の得意を伸ばして、自信を持って子どもに関われるようになることで、教員が自らの専門分野で保育に関わる学生が興味を持てる内容を展開している。筆者は、本学では、教科としての「国語」や「文章のトレーニング」などを担当しているが、文学研究の方法や楽しみ、古典教材へのアプローチも伝えたい分野である。

そこで、筆者のゼミは、「ことば」に関わる表現媒体をテーマとした。「絵本に親しみ、お話作りができる保育者になろう」が、子ども学ゼミで「絵本」をとりあげた際に掲げた目標であった。

それを目標としたきっかけは、「国語」の時間とうまく連携できればよいと、参観した図工担当教員による紙芝居作成の授業の発表会であった。学生が製作した紙芝居や絵本は、オリジナリティに溢れ、工夫されたものであるが、その文章は、作成にあまり時間が掛けられたものとは言えなかった。現実世界のできごととして描かれる内容が正しい科学知識に基づかなかつたり、展開に整合性がなかつたり、独創性に欠けたりする作品もあった。「絵」や「デザイン」が好きで得意な学生たちは、作成時もそちらに重点が掛かり、文章推敲に掛ける時間がないという理由があるだろう。

そこで、自由に想像力を働かせ、お話を闊達に創作できるようになる学生が増えればよいと考えたことも、本ゼミの目標に影響している。そのためには、優れた絵本作品に出会うことが肝要であると思われ、多くの作品を読んで、創作を行うことを目指してゼミを行っている。

2011年より、本年まで、5回の絵本ゼミを行ったが、内容的にさまざまな絵本に触れ、考えることを目的とするので、現在も、通年形式で開講している。

この五年間に見られた学生の特徴は、絵本をよく知ろうとするためのアプローチとして、テーマ毎に20冊以上の本に触れることを目標とするにもかかわらず、長い文章の本、字数の多い本を避ける傾向が増加している。お話作成の時も長い文章を、構成を考えて書くことを苦手とする学生も多い。

本来、「書くこと」や「読むこと」の好きな学生は難しくこなしていくが、1冊の絵本や1枚の原稿用紙の前に苦戦する学生もいる。メールを「打つ」ことやSNSに短文でアップすることに慣れて「長文」を苦手とする傾向が生じているのかもしれないが、そのような学生にも苦手意識なく、さまざまな絵本に近づける方法を考えたい。

筆者は本学の『教育実践研究紀要』（前号）〈注1〉にも、この傾向を取り上げ、

（いろいろなテーマに沿って絵本を集め、読み比べ、よいと思われる「好きな」絵本を選び、読み比べた絵本と同じテーマで創作する時間の中で、）学生にとっては、毎回のテーマに追われ、積み上げる意識が希薄になってしまっている。特に、絵本であっ

てもたくさんの本を読むことに苦手意識をもつものもいて、文章の短い本、赤ちゃん絵本を選択しようとして逆に（創作するときには）難しいテーマとなってしまう結果となる。いずれにしても、いろいろな絵本に触れるという目的は達成できているので、絵本を知るところまで深化させることが次の課題である。

と記した〈（ ）内に、引用に際して文意を補った〉。

そこで、この課題の改善策と絵本へのアプローチの方法について、今回の報告をする。

2. 絵本へのアプローチ

創作の際、学生にとって、絵本（物語）の中で主人公となるキャラクターを設定するのは、なかなか難しいことであるので、初回は、少年・少女など、どの絵本にも登場する主人公を持つ絵本を探すようにする。

20冊以上を目指し、実際は平均10冊程度の少年・少女が出てくる絵本を読んでいく。

読んだ本については、「絵本リスト」を作成し、書名・作者（画家）・出版社・発行年（第何刷）・初版年・覚書のメモを記入していくよう、記入用紙を作成して、義務づけた。

次に、少年・少女に特有の性格・傾向はないかを考え、これぞと思う特性を持つ少年・少女を主人公にお話作りをする。

これは、絵本調べのやり方を身につける練習でもあるが、大抵の学生が困難なく、少年・少女の物語を創作する。

そこで、2回目は、「動物が主人公になる絵本」から、キツネ・ブタ・ネズミ・クマ・ウサギなど好きな動物をテーマとし、絵本（物語）に描かれる動物の固有の特性を探っていく。

このような、キャラクターありきの物語絵本の調査・創作を行ったあとで、言葉や詩の絵本やオノマトペ絵本なども読み比べを行って、種類の絵本に触れていく。

また、前期に記録方法を習得した上で、後期のゼミでは、国内と海外の昔話を1物語ずつ読み比べ、伝承される際にも、名前、登場人物、用いられる道具にも、細かな異なりがあり、昔話の絵本化の際に、さまざまな改編が行われていることに気づかせ、楽しく、正しいパロディ絵本を創作することを目標としている。

昔話は、次章以下で述べるように、文章化された作

品そのものの比較、絵にする場面の比較、内容の作品への取り入れ方の比較（パロディにも繋がる）、また、それらを参考にした創作にもいろいろな切り口で作品研究ができる素材である。これにじっくり取り組ませたいと考えている。

3. 昔話絵本

昔話とその絵本化については、さまざまに言及がある〈注2〉。昔話は、

- 1) 語り、口承文芸であること。
- 2) 架空の、想像の物語であること。それを、「むかし、むかし、あったとさ」などの「発端句」と「とっぴんぱらりのふう」などの「結句」など、定型の語りで示す場合もある。
- 3) 世界や、日本国内の各地の話でも一致する物語があること。
- 4) 繰り返される言葉やパターンがあること。
- 5) 生きる厳しさを伝える残酷さ・怖さを含むものがあること。
- 6) 「残酷さ」や「繰り返し」を省略するために作り替えられることがあるが、それは適切ではないこと。
- 7) 昔話・神話・伝説・寓話やよく知られた童話は多く絵本化され、名作絵本、古典絵本ともいわれること。

などが指摘される。

さまざまな絵本化が行われている昔話について、その問題点を、脇明子氏は『子どもの育ちを支える絵本』のなかで、以下のように指摘する〈注3〉。

ひとつには、「昔話絵本にはおなじ題のものがたくさんある」という点。同じ話を基にしても文章化した作家、絵画化した画家によって、その質には大きな開きがあることがある。それに対して脇氏は、

そこでお勧めしたいのが、気になる昔話絵本を一冊選び、それとおなじ題のものを図書館でありつたけ借り集め、仲間で読み聞かせあうなどして、丹念に比べてみることです。それをやれば、少なくとも、いいものと感心できないものとのあいだにどれほどの差があるのかがわかり、次に選ぶときにより慎重になりますし、それをくり返していれば、どんどん目も肥えてきます。そうやって目を肥やしていけば、創作絵本を選ぶときにも応用がききます。

と述べている。ここでも、集め、丹念に比べることが推奨されている。「読みきかせあう」など細部まで目を

届かせる比較が重要であるのである。

さらにもう1点は、「ねむりひめ」と「いばらひめ」と「眠れる森の美女」、「おだんごぼん」と「ころころパンケーキ」、「つるによぼう」と「つるのおんがえし」、「かにむかし」と「さるかに合戦」、「たにし長者」と「つぶ息子」といった具合に、題はちがってもおおむねおなじ話というものがいろいろ、存在する点である。

伝承の過程で、細部が異なり、その国や地方に似つかわしい形で、ものや道具や名前が変えられているのである。その上、翻訳絵本の場合は、訳者によっても、訳された時代によっても、使われる訳語が異なり、同じ話を見極めることが難しい場合もある。

「わからなかったら、図書館でも相談してみるといいでしょう。」というのが脇氏の提案であるが、それを学生ができるようになることを目標としてゼミを行うのである。

本学の学生は、保育士・幼稚園教諭・保育教諭になるために学んでいる。絵本の研究をするために進学したわけではないが、自ら調べ、考えだした結論は、自分の知識・財産となって残ることを、楽しみと捉える機会を持って欲しいと思う。

4. 昔話絵本を読む意味

① 小学校への連携

小学校の教科書で「いなばのしろうさぎ」が、読みかせ教材として登場したのは2008年の「学習指導要領」の改訂からである。「伝統的言語文化」の教材として「いなばのしろうさぎ」は新聞などでも大きく取り上げられた。従来、国語の内容として「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の4つの柱を支える基本的な学習事項が、「言語事項」とあったものが「伝統的な言語文化と国語の特質」と改められた。それは、2017（平成29）年の告示で、「2 内容」の「知識及び技能」の（3）に「我が国の言語文化に関する事項を身に付けることができるよう指導する。」と書かれた今も変わっていない。

「小学校学習指導要領」（平成29年7月）第2章第1節 国語では、低学年は、ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。

中学年では、

ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。
 イ 長い間つかわれてたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り使うこと。

また、高学年では、

ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。

とあって、伝統的な文化や古典教育への始まりとして、昔話・神話・伝承が用いられている。

これを反映して、教科書（本稿では、代表的な三社の教科書を参照した〈注4〉）では、1、2年に読み聞かせや児童が本文を読む教材として、児童文学作家の文章や訳による昔話、神話が載せられている。その作品名を揃え、学年順に掲示した（表1参照）。

（表1）教科書の中の昔話・神話

題名	再話・訳	採用教科書	学年
おおきな かぶ	内田莉莎子	三省堂	1年上
おおきな かぶ	内田莉莎子	東京書籍	1年上
おおきな かぶ	西郷竹彦	光村図書	1年上
おむすびころりん	羽曾部 忠	光村図書	1年上
にくをくわえたいぬ	川崎 洋	三省堂	1年上
たぬきの糸車	岸なみ	光村図書	1年下
花さかじいさん	石崎 洋司	東京書籍	1年下
かさこじぞう	岩崎 京子	三省堂	2年
かさこじぞう	岩崎 京子	東京書籍	2年下
いなばの白ウサギ	宮川 ひろ	三省堂	1年下
いなばの白うさぎ	川村たかし	東京書籍	2年上
いなばの白うさぎ	中川李枝子	光村図書	2年上
だいらぼう	(水戸の話)	東京書籍	2年上
十二支のはじまり	谷真介	光村図書	2年下
三まいのおふだ	瀬田貞二	光村図書	2年下
スーフと馬頭琴	藤公之介	三省堂*	2年
スーホの白い馬	大塚勇三	光村図書	2年下

*は「学びを広げる」別冊所載

「いなばの白ウサギ」については三省堂が1年で扱い、他社は2年で扱うなど小異はあるが、ロシア民話「おおきなかぶ」と並んで、三教科書で取り上げられる。その作品数も、以下の通り、ほぼ平均している

（表2）

光村図書	7
東京書籍	5
三省堂	5

これ以外にも共通して、「むかしばなしがいっぱい」（1年下・光村図書）、「おはなしきかせて」（1年上・三省堂）、「むかしばなしをたのしもう」（1年下・東京書籍）と昔話を彷彿とさせる挿絵がつけられ、「おはなし」について考える教材がある。この絵から、知っているお話を見つけようという趣向であるが、表3、4のような種類の絵が描かれている。三省堂（三と略称表示する、以下同じ）は、オリジナル絵本のある昔話絵本の挿絵を用い、5冊だけを示している。東京書籍（東）と光村図書（光）は多くの物語を集め、各物語の場面を1枚の絵に書き入れているが、光村図書が二頁にわたり、日本と外国のお話を分けて示しているのに対し、東京書籍は日本の話に限っている。このような意図の違いがあるので、数を比較するのではないが、一年生にも知られている、知って欲しい昔話としてこのような物語が挙がっているのである（表の昔話名は一般的に知られる物語名を絵から推測し、筆者が記入したもの）。

（表3）日本のおはなし

1	一寸法師			東
2	浦島太郎	光	三	東
3	うりこ姫とあまんじゃく	光		
4	おむすびころりん			東
5	かもとりごんべえ			東
6	かぐやひめ	光		東
7	かさこじぞう	光		東
8	かちかち山	光		東
9	聞き耳ずきん	光		
10	金太郎	光		東
11	さるかにかっせん	光		東
12	三年寝たろう	光		
13	雀のお宿	光		東
14	ちからたろう	光		
15	つるの恩返し	光	三	東
16	てんぐの隠れ蓑	光		
17	ねずみのすもう	光		
18	ネズミの嫁入り			東
19	花咲じいさん	光	三	東
20	文福茶釜	光		東
21	桃太郎	光	三	東
22	ゆきおんな	光		
23	わらしべ長者	光		

(表4) 海外のおはなし

1	青い鳥	光	
2	あかずきん	光	三
3	アラジンの魔法のランプ	光	
4	うさぎとかめ	光	
5	おおかみと七匹の子ヤギ	光	
6	親指姫	光	
7	北風と太陽	光	
8	金のガチョウ	光	
9	三匹のクマ	光	
10	三匹の子豚	光	
11	ジャックと豆の木	光	
12	白雪姫	光	
13	シンデレラ	光	
14	長靴をはいた猫	光	
15	人魚姫	光	
16	眠り姫	光	
17	はだかの王さま	光	
18	ハーメルンの笛吹き	光	
19	ブレーメンの音楽隊	光	
20	ヘンゼルとグレーテル	光	
21	みにくいアヒルの子	光	
22	ラプンツェル	光	

以上からも、入学前にさまざまな昔話を聞いている、知っていることが、子どもたちの楽しみとして必要となると思われるが、前掲の著書の中で、脇氏は以下のようにも述べている〈注5〉。

文章の量の多い昔話絵本は、絵本から物語の本への橋渡しにも欠かせません。絵本を読み聞かせてもらうとき、……聞くだけなら読むのちがってかんたんかという、そうではなくて、注意をとぎれさせずにお話意識を集中し、得た情報を整理しながら聞きつけていくためには、場面場面を楽しむだけでなく、お話のつながりを意識しながら聞くという体験の長い積み重ねが必要です。……やがて文字ばかりの本が読めるようになるためにも、小学校に進んで先生のお話が聞けるようになるためにも、すばらしい橋渡しとなる昔話絵本をおおいに活用してください。

②幼児教育のなかで

2017(平成29)年に告示された、i「幼稚園教育要領」、ii「保育所保育指針」、iii「幼保連携型認定こ

も園教育・保育要領」のなかで、「絵本」という言葉が使われるのは、

i)「幼稚園教育要領」

第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の(9)言葉による伝え合い「先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。」と、言葉を獲得し、コミュニケーションを取り、それを楽しむ時の手段として、「先生や友達と心を通わせる」ことと並んで「絵本や物語などに親しむ」ことが記述される。

それは、明記されていないものの、言葉の獲得のみならず、(10)豊かな感性と表現、に「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き……」とあるところにもつながる「心を動かす出来事」のひとつに「絵本や物語など」があることを示しているだろう。

「第2章 ねらい及び内容」の「言葉」領域の内容(9)に「絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう」ともあって、絵本に親しむことで「想像する楽しさ」を味わい、想像力が培われることを示している(ii、iiiについては〈注6〉参照)。

このように幼児教育において「絵本・物語など」の重要性が確認されているなか、「物語など」には、昔話やストーリーテリングも含まれていると考えられる。保育者が昔話に親しんでいる必要があるだろう。

5. 2019年度子ども学ゼミの取り組み

2019年度ゼミは、

【授業のテーマ及び到達目標】

お話づくりユニット—絵本の楽しさを知り、「お話(ストーリー)」を作ってみよう—

目標:

- 1、保育者として、楽しい絵本を紹介していくために、楽しく優れた表現を持つ絵本を探索する。
- 2、保育者として、楽しい絵本を紹介していくために、多くの名作絵本に触れて、その良さを発見する。
- 3、子どもと楽しむお話づくりをする。
- 4、創作を通して、子どもの想像力を育むことので

きる保育者をめざす

として、授業計画は、【全体の授業計画・内容】

前期

1. オリエンテーション
2. 絵本について知ろう
3. 主役となるキャラクター探し
4. 設定キャラクターの絵本集め
5. まとめ レポート の作成・報告
6. お話づくり
7. 報告会
8. 好きな作家を探そう
9. 好きな作家の絵本集め
10. レポート作成と報告
11. 絵本に出てくる楽しい言葉
12. 言葉の絵本探し・報告
13. 私のお話づくり 構想と人物
14. 私のお話づくり ストーリー
15. 発表批評会

後期

1. 前期の作品の講評をする。
2. 昔ばなしの絵本を探そうー海外編ー
3. 昔ばなしの絵本集めー海外編ー
4. 昔ばなし絵本の違いを知ろうー海外編ー
5. 昔ばなしのパロディ創作
6. 昔ばなしの絵本を探そうー日本編ー
7. 昔ばなしの絵本集めー日本編ー
8. 昔ばなし絵本の違いを知ろうー日本編ー
9. 昔ばなしのパロディ創作
10. 報告会
11. 物語絵本を探そうー起承転結ー
12. 物語はどこが絵になるのか考えよう
13. 私のお話づくり 構想と人物
14. 私のお話づくり ストーリー
15. 発表批評会

と設定した。後期になって、海外の昔ばなし絵本を探し、集めるなかで、グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」を取り上げた学生がいて、グリム童話の絵本化の多彩さに、ゼミ生全体で興味を持った。

多くの作家が絵本化しているグリム童話は作品の出来も多様であり、「比べ、見極める」ことが難しい。多くの作品を参照する必要がある。

もちろん、絵本は本学付属図書館に所蔵するものが中心となるが、それでも多くの作品を扱うことになる。

本章2、3で述べたように、じっくり取り組むのに

最適な課題に時間をかけて学ぶ楽しさを知って、深めるために、後期シラバスをグリム童話を中心にして読むように変更して進めることとした。

目標1：グリム童話を調べるための基礎資料作り

目標2：昔話のどこをどのように取り上げて絵本のおはなしとするのがよいか、また、絵はどの場面を取り上げて絵画化するのか、絵本作りの考察研究をする（本来のゼミの目標）。

目標1を掲げる必要があったのは、グリム童話とペロウ童話には共通する話があるが、その題名が異なること、また『グリム童話』の話はディズニーアニメや実写映画などにもよく取り上げられるが、学生はその結末が一特にディズニーアニメで一幸福に、おだやかに改編された話をグリムの物語と理解していて、童話集と比較する必要があったこと、そして、『グリム童話集』として出版される「再話集」と子どものための童話として出版される「児童文学」との間にも、題名の異なりがあり、グリムの集めた話は、どのような形で読まれているか、知った上で、さらに絵本となった時に、目標2に向かう必要があると解ったからである。

従来は、図書館にある同じ題の絵本を10数種集め、比較し、多様多彩さを知り、そのうちで一つの物語を作った作家の手法を考察する、子どもに読みたい絵本がどれか考えることで終わっていたところであるが、その過程で、目標1にも興味を持って学生が取り組みたいということになった。

6. グリム童話の基礎知識

グリム童話は、ドイツやその周辺の地域に語り継がれた物語が、グリム兄弟によって再話され、1812年に初版第1巻が刊行された。以降、子どもが読むにふさわしくない描写や残酷な内容を修正し、グリム兄弟は何度も改稿、出版を重ねた。それを最終稿とする意図ではなかったともいわれるが、結果的に200話を収めた第7版が最終版となって1857年に刊行されている。

日本では、「灰かぶり」などの11話が1987年に紹介され、「赤ずきん」など教訓をともなったおはなしが知られていった。

1920年代には童話全作品が翻訳され、子ども向け雑誌にも紹介され、1950年代にはグリム童話絵本も作られたのである。

絵本研究の前提として、『グリム童話』を読むために学生が本学図書館で探して比較作業を考えた本は、①

～③である。

- ①〈略称：岩〉グリム童話1～3（グリム兄弟・相良守峯訳・1966年初版・岩波書店・全60話）
- ②〈略称：こ〉子どもに語るグリムの童話1～6（佐々木梨代子、野村滋訳・1990年初版～1993年・こぐま社・全64話）
- ③〈略称：少〉（グリム童話集上下（佐々木田鶴子・岩波少年文庫・2007年初版・全50話）。
- ④〈略称：朝〉立原えりかのグリム童話（次章に詳述）
- ⑤〈略称：児〉「岩波世界児童文学集」11「グリム童話選（相良守峯訳・岩波書店・1993年〈23編〉・考文献参照）

本稿では、授業時より増やし、①～⑤が取り上げたおはなしを比較し、児童書の重なりを表5にした。児童書が取り上げ易いおはなしが見えるだろう。

表のKHMは、参考文献に挙げた第7版グリム童話集につけられている作品番号である。200話のうち、94話が5種の児童書のいずれかに収められている。

この中では、④と⑤が25編・23編と精撰された集となるので、少しその特徴を考えたい。

①岩と⑤児は訳者が同じであるので、①の60話を23話に抽出すると⑤になるということかと思われるが、28「歌をうたう骨」、107「ふたりの旅職人」、182「池の精」の3作は相良守峯氏のみが選んだ作品である。

また、⑤は後述のように「朝日小学生新聞」に掲載された作品集である。独自の選話は、108「ハンスぼっちゃんはりねずみ」、146「かぶら」と「青ひげ」である。「青ひげ」につけたKHM46はグリム童話第7版では「フィッチャーの鳥」という話になる。ペロー童話に載る「青ひげ」は有名で残酷な話であるが、そのためにグリムでは初版にあったものは削除され、「フィッチャーの鳥」という似た所のある話に変えられている。

同様に、106「あわれな粉やの若者とねこ」は猫と粉屋の若者が登場するものの、グリムとペローで内容は異なる。立原版はこれもペロー童話「長靴をはいた猫」の内容で物語を描き、ペロー童話は「靴はき猫」と題されている。

また、グリム童話50「いばら姫」は、立原版では「野ばら姫」で題名にも異なりがある。これはペロー童話では「眠れる森の美女」となっている。このように、原初に近い話として伝えられおり、それぞれグリム兄弟とペローが再話した物語は、⑤立原版では、小学生という読者層によく知られる題名や内容で掲載されたのではないかと思われる。

（表5）児童書に取り上げられるグリム童話

KHM	①岩波グリムの題名	岩	こ	少	朝	児
1	カエルの王さま	○	○	○	○	○
2	ネコとネズミのともぐらし	○	○			
3	マリアの子		○			
4	こわいことを知りたさに旅する人の話	○	○			
5	オオカミと七ひきの子やぎ	○	○	○	○	○
6	忠臣ヨハネス	○	○			
9	十二人きょうだい	○	○			○
10	ならずもの		○			
11	にいさんと妹	○	○	○		
12	ラプンツェル	○	○	○	○	○
13	森の中の三人の小人	○	○	○		○
14	三人の糸つむぎ女		○			
15	ヘンゼルとグレーテル	○	○	○	○	○
17	白へび	○		○		
18	むぎわらと炭と豆	○	○	○	○	
19	漁師とその妻の話	○	○	○	○	○
20	いさましいちびの仕立屋	○	○	○	○	
21	灰かぶり	○	○	○	○	○
24	ホレおぼさん		○	○		
25	七わのからず		○			
26	赤ずきん	○	○	○	○	○
27	ブレーメンの音楽師	○	○	○	○	○
28	歌をうたう骨	○				○
29	三本の金の髪をもった鬼	○	○	○		
30	シラミちゃんノミちゃん	○	○			
31	手なし娘	○	○			
33	三つのことば	○		○		
36	「テーブルよ、ごはんの用意」とお金をうむロバと「こん棒、ふくろから」	○	○	○	○	
37	おやゆび小僧	○	○	○		

KHM	①岩波グリムの題名	岩	こ	少	朝	児
39	こびとくつや		○	○		
44	死神の名付け親	○	○			
48	おいぼれズルタン		○			
49	六羽の白鳥			○	○	
50	いばら姫	○	○	○	○	○
51	みつけどり		○			
52	つぐみひげの王さま		○	○	○	
53	白雪姫	○	○	○	○	○
55	ルンペルシュティルツヘン		○	○		
57	金の鳥		○	○		
59	フリーダーとカーターリーソース ヒュン			○		
60	ふたりの兄弟	○		○		
62	ハチの女王		○	○		
63	三まいの鳥の羽		○	○		
64	金のガチョウ	○	○	○	○	
65	千色皮	○	○	○		○
69	ヨリンテとヨリンゲル		○	○		
71	六人男、世界をのし歩く		○			
73	おおかみときつね		○			
77	かしこいグレーテル		○			
78	年とったおじいさんとまご	○				
81	のんき男	○				
83	幸運ハンス	○	○	○		○
87	貧乏人とお金持ち		○	○		
88	歌いながらぴよんぴよんとぶヒ バリ	○	○	○		
89	ガチョウ番の少女	○	○	○		○
94	かしこい百姓娘		○	○	○	
97	いのちの水	○		○		○
98	ものしり博士	○	○	○		○
99	びんの中のおばけ	○		○		
100	悪魔のすすだらけの兄弟			○		
101	熊皮太郎	○	○			○
102	みそざいとくま		○	○		
103	おいしいおかゆ		○	○		
106	あわれな粉やの若者とねこ		○		○	
107	ふたりの旅職人	○				○
108	ハンスぼっちゃんはりねずみ				○	
116	青いランプ	○	○			○

127	鉄のストーブ	○		○		
129	名人の四人兄弟			○		
130	一つ目、二つ目、三つ目	○	○			
133	踊ってぼろぼろにされた靴	○	○		○	
134	六人のけらい	○		○		
136	鉄のハンス	○	○			
142	ジメリの山	○				
144	ロバの王子			○		
146	かぶら				○	
154	星の銀貨		○	○	○	
162	雪白ちゃんとバラ紅ちゃん	○	○		○	○
166	グライフ鳥	○				
167	大カハンス	○				
169	森の家	○	○			
172	かれい		○			
176	月	○			○	
180	泉のほとりのガチョウ番の女	○				
182	池の精	○				○
188	ウサギとハリネズミ	○	○			
189	錘(つむ)と梭(ひ)とぬい針			○		
190	農夫と悪魔	○				
192	てんじくねずみ		○			
193	どろぼうの名人	○				
195	ムギの穂	○				
196	土まんじゅう	○				
199	マレーン姫	○	○	○		
-46	青いひげ					○

7. 立原えりかのグリム童話

偶然ではあるが、後期期間中である2019年の11月9日(土)から12月24日(火)まで、姫路文学館で「立原えりかのグリム童話」絵本原画展が行われていることを知った。

絵本原画を実見する機会はあるが、テーマがゼミの内容と重なることもあって、1時間を見学学習に振り替えて鑑賞した上で、ゼミを進めることとした。

『立原えりかのグリム童話』は右側1頁におはなし、左側1頁に絵というかたちで、見開き1枚で1話が読

めるように書籍化しているのですが、グリム童話絵本ではあるが、絵は、一話の挿絵であり、絵本として、絵と文字が同じ頁内に融合している訳ではない。

それはそもそも、この作品がグリム童話刊行200年を機に、「朝日小学生新聞」で児童向けに企画され、新聞連載された作品であるからだ。連載は2013年10月から2014年3月にかけておこなわれた。

展覧会では、「六羽の白鳥」(きたのじゅんこ絵)を除き、一部はレプリカなども含む24作の展示であったが、絵本では、25作が収められている。この経緯について、立原えりか氏があとがきにくわしく記している。

二〇一三年十月、わたしは「朝日小学生新聞」のために『グリム童話』を書くことになりました。二百以上もある物語から二十五編を選んで、それぞれ千二百字ほどにまとめなければなりません。

グリム童話は長い話が多いので、初めから終わりまでを書くことができたのは『赤ずきん』と『星の銀貨』くらいです。長い物語は、わたしにとって最高のシーンをとりあげました。それぞれのシーンに、著名なイラストレーター諸氏が絵を描いてくださるという、天国にいるような仕事でした。

という次第で、字数の制限の中で、作家がどのように物語を切り取ったか、考察が必要となる。また、画家の方も、各場面を絵にすることができず、立原物語を

(表6) 異なる題名とその所収の集

KHM	題名①	題名②	題名③	題名④	題名⑤	第7版	岩	こ	少	朝	児
1	蛙の王さま または鉄のハイ リヒ	蛙の王さま ある いは鉄のハイ リヒ	カエルの王さま			◎	○	○	○	○	○
5	狼と七匹の子や ぎ					◎	○	○	○	○	○
12	ラプンツェル					◎	○	○	○	○	○
15	ヘンゼルとグレ ーテル					◎	○	○	○	○	○
19	漁師とおかみさ んの話	漁師とかみさん	漁師とその妻の 話	漁師とおかみさ ん		◎	○	○	○	○	○
21	灰かぶり	灰まみれ	灰かぶり(シンデ レラ)			◎	○	○	○	○	○
26	赤ずきん					◎	○	○	○	○	○
27	ブレーメンの音 楽隊	ブレーメンの音楽 師				◎	○	○	○	○	○
50	いばら姫	野ばら姫				◎	○	○	○	○	○

どのように描くのか、それでも絵のどこかに、立原物語が省略したグリム童話原作が隠れてはいないか、などなどいろいろな視点から考察することができる。

25編から2または3作を選んで考察するのは、学生の課題でもあるので、これについては別の機会に報告することとする。

8. 題名の異なり

第5章・6章でみたように、『グリム童話集』は、グリム兄弟が、改編や修正を繰り返しているのので、どの時点の集を本物とみるか、という点では、最終稿とであるが、その第7版を人々がいろいろに作品集とし、訳し、立原版『グリム童話』のような例も出ている。これらは、末端の享受者が「集」の作者にもなりうる、という点で日本の古典である『伊勢物語』伝承のありように近いものがあると思われる。

しかし、その「集」が編まれた時点での目的・編者の意図があるため、その異なりの是非を問うより、それぞれの意図を見極め、結果として作品のどれを読みたい物語として選ぶかが、重要となる。

しかし、題名をみただけでは同じ話であることも見分けがつかないものもあるので、一覧表を作成した(表6参照)。

53	白雪姫					◎	○	○	○	○	○
18	わらと炭とそらまめ	むぎわらと炭と豆				◎	○	○	○	○	
20	勇ましいちびの仕立て屋	ゆうかんな仕立屋さん	いさましいちびっこの仕立屋さん			◎	○	○	○	○	
36	〈おぜんよ、したく〉と金出しろばと〈こん棒、出ろ〉	テーブルごはんた、金ひりろば、こん棒出てこい	「テーブルよ、ごはんの用意」とお金をうむロバと「こん棒、ふくろから」	テーブルとロバとこん棒	おぜんやご飯のしたくと金貨をうむロバと棍棒ふくろからでろ	◎	○	○	○	○	
64	金のがちょう	黄金のがちょう				◎	○	○	○	○	
65	千枚皮	毛むくじやら姫	千色皮	千匹皮		◎	○	○	○		○
83	しあわせハンス	幸せなハンス	幸運ハンス			◎	○	○	○		○
89	がちょう番の娘	ガチョウ番の少女				◎	○	○	○		○
98	もの知り博士	なんでもお見とおし博士	ものしり博士			◎	○	○	○		○
161	雪白とばら紅	しらゆきべにばら	雪白ちゃんとバラ紅ちゃん			◎	○	○		○	○
9	十二人の兄弟	十二人兄弟				◎	○	○			○
11	兄と妹	兄さんと妹				◎	○	○	○		
13	森のなかの三人の小人	森の三人のこびと				◎	○	○	○		○
29	金の毛が三本ある悪魔	悪魔の三本の黄金の毛	三本の金の髪をもった鬼	三本の金の毛のある悪魔		◎	○	○	○		
37	親指小僧					◎	○	○	○		
52	つぐみひげの王さま	ツグミのひげの王さま				◎		○	○	○	
88	鳴いてはねるひばり	歌うぴょんぴょん雲雀	歌いながらぴょんぴょんとぶヒバリ	歌いながらはねるヒバリ		◎	○	○	○		
94	かしこい百姓娘	かしこいお百姓の娘	世界で一番賢いおきさき			◎		○	○	○	
97	命の水	命の水	いのちの水			◎	○		○		○
101	熊の皮を着た男	熊皮男	熊皮太郎			◎	○	○			○
116	青い明かり	青い灯火	青いランプ			◎	○	○			○
133	おどってぼろぼろになった靴	踊りつぶされた靴	踊ってぼろぼろにされた靴	おどっておどってぼろぼろになったくつ	おどりぬいてぼろぼろになる靴	◎	○	○		○	
153	星の銀貨					◎		○	○	○	
198	マレーン姫					◎	○	○	○		
2	猫とねずみのも暮らし	猫と鼠の仲	ネコとネズミのも暮らし			◎	○	○			

4	こわがることを習 いに出かけた男 の話	こわがり修業に 出た男	こわいことを知り たさに旅する人 の話	こわがることをお ぼえに旅に出た 男の話		◎	○	○				
6	忠義なヨハネス	忠臣ヨハネス				◎	○	○				
17	白い蛇	白へび				◎	○		○			
24	ホレおばさん	ホレばあさん				◎		○	○			
28	歌う骨	歌をうたう骨				◎	○					○
30	しらみとのみ	シラミちゃんとノミ ちゃん				◎	○	○				
31	手なし娘					◎	○	○				
33	三種のことば	三つのことば				◎	○		○			
39	小人たち	屋敷ぼっこ	こびととくつや	こびとのくつ屋		◎		○	○			
44	死に神の名づけ 親					◎	○	○				
49	六羽の白鳥					◎			○	○		
55	ルンベルシュティ ルツヘン	ひよろひよろ足の ガタガタこぞう	ルンベルシュティ ルツヘン			◎		○	○			
57	金の鳥	黄金の鳥				◎		○	○			
60	ふたり兄弟	ふたりの兄弟				◎	○		○			
62	蜂の女王	蜜蜂の女王				◎		○	○			
63	三枚の鳥の羽根	三枚の羽根				◎		○	○			
69	ヨリンデとヨリン ゲル	ヨリンテとヨリン ゲル				◎		○	○			
86	狐とがちょう					◎						
87	貧乏人と金持ち	まずしい人とお金 もち				◎		○	○			
99	びんのなかの魔 物	ガラス瓶の魔物	びんの中のおば け	ガラスびんの中 のばけもの		◎	○		○			
102	みそざいと熊					◎		○	○			
103	おいしいおかゆ					◎		○	○			
106	かわいそうな粉 ひきの若い衆と 猫	かわいそうな粉 ひきの小僧と猫	あわれな粉やの 若者とねこ	靴はき猫		◎		○		○		
107	ふたりの旅人	二人の旅職人				◎	○					○
127	鉄のストーブ	鉄の暖炉				◎	○		○			
130	ひとつ目、ふたつ 目、三つ目	一つ、二つ、三つ まなこ				◎	○	○				
134	六人の家来					◎	○		○			
136	鉄のハンス					◎	○	○				
169	森の家					◎	○	○				
175	お月さま	月				◎	○			○		
181	池に住む水の精	池に住む水女	池の精			◎	○					○

187	うさぎとはりねずみ					◎	○	○					
3	マリアの子					◎		○					
10	ならずもの	ろくでもない連中				◎		○					
14	三人の糸紡ぎ女	糸紡ぎ三人女				◎		○					
25	七羽のカラス					◎		○					
48	古いぼれズルタン	ズルタンじいさん				◎		○					
51	みつけ鳥	めつけ鳥				◎		○					
59	フリーダーとカーターリースヒエン	フリーダーとカーターリースヒエン				◎				○			
71	六人男、世界をのし歩く	六人男天下をのしてまわる				◎		○					
73	狼と狐					◎		○					
77	かしこいグレーテル					◎		○					
78	年とったおじいさんと孫	年とったじいさんと孫				◎	○						
81	気楽な男	うかれ大将	のんき男			◎	○						
100	悪魔のすすだらけの兄弟	悪魔の煤だらけの兄弟分				◎				○			
108	ハンスはりねずみ	ハンス坊や針鼠	ハンスぼっちゃんはりねずみ			◎					○		
129	わざのすぐれた四人兄弟	すご腕四人兄弟	名人の四人兄弟			◎				○			
142	ジメリの山					◎	○						
144	ろば	ろば王子	ロバの王子			◎				○			
146	かぶ	かぶら				◎					○		
166	たくましいハンス	怪力ハンス	大力ハンス			◎	○						
167	天国の小百姓	天国の水呑百姓				◎	○						
172	かれい					◎		○					
179	泉のほとりのがちょう番の娘	泉のほとりのがちょう番の女				◎	○						
188	紡錘と杼と針	錘(つむ)と梭(ひ)とぬい針				◎				○			
189	お百姓と悪魔	農夫と悪魔				◎	○						
191	てんじくねずみ					◎		○					
192	泥棒の名人	泥棒名人				◎	○						
194	麦の穂					◎	○						
195	墓の盛り土	土まんじゅう				◎	○						
-46	青ひげ											○	
KHM	題名①	題名②	題名③	題名④	題名⑤	7版	岩	こ	少	朝	児		

- ・KHMはグリム童話第7版の作品番号で、ちくま文庫版と講談社版の2種の題名を比較した（参考文献参照）。作品数は同じ。
- ・岩・こ・少・朝・児の略称は（表5）と同じ。
- ・題名は漢字・平かな・カタカナの異なりは同一と見なし、文字の種類以外で異なるものを掲示した。

この表6では、参考文献に挙げたように、大阪府立図書館WebOPACをもとに、第7版の『完訳グリム童話集』2種（ちくま文庫版・講談社『完訳クラシックグリム童話』版）の題をもとに比較した。表5で、収録の重なりを比較した5種類の童話集の題名も、異なる題名は掲示し、収録本が多いものから順に掲載した。

また、ちくま文庫版と講談社クラシック版は、完全版であるので、この2種以外に5つの童話集に収録があるものを表6に掲げ、異なる題名で収録される数が多いものから掲載している。この表では、その童話集がどの題名であるかを示すのは省略し、何種類の題がつけられているかが、見られるようにした。

ちくま文庫版と講談社クラシック版とでも題名が異なる場合もあるし、「赤ずきん」「白雪姫」のように全てに収録されていても、全て同じ題名であるものがある。これは、よく知られた物語、とみることができ、もちろん、各作品集によって、描かれ方は大きく異なるのである。また、単一の訳しかできない題名もあるので、題名の比較は同じ物語か、似た話であるのかを、KHMと併せて判断して行かねばならない。

この表は、絵本化されたり、童話集に編まれたりした『グリム童話』が、本来、グリム兄弟にどのような物語として再話され、グリム兄弟が残したい形であったのかと第7版と比較する際に指標とすることができる。また、童話集の物語の比較にも利用できる。そして、『グリム童話』といえどどのような作品をイメージするのか、それが多くの作品集に掲載されるお話の分析で分かるだろう。そして、その各話のイメージの変遷も、いつ、誰の嗜好や意図によって行われたか、さまざまな文学研究、作品研究の糸口が探せるものと思われる。

9. おわりに

今後のゼミでは、これらを活用し、今に生きる『グリム童話』の優れた語りを伝える、優れた絵本を子どもたちに届けるための助けとしたい。

2019年度後期ゼミで、当初、海外の昔話の一つとして「ヘンゼルとグレーテル」を読みはじめた学生は、「グリム童話」「ペロウ童話」「イソップ物語」などの再話された昔話と、作者のある童話の違いも意識していな

かった。名作童話のさまざまな絵本化をみて、その違いに気づいた時、どうしてこのような差があるのか、それなら、本当のグリム童話とは何なのか、を考えた所から、この比較表を作る必要を感じていった。そして、立原グリムと出会って、グリム童話として、どのように作品を読んでいくか考えた学生に、表5・6を示して、グリム原作やその童話化、絵本化された作品を読み比べるためには、このような表で読むべき作品を集めていく必要があることを教示した。学生はこれを利用して、それぞれの作品研究をレポートにまとめた。以下が、授業後の感想である。

Aさん) もともとグリム童話として知っていたものもあったけど、これグリム童話だったんだ！と知った話や、新しく知った話などたくさんグリム童話を知ることができました。有名な可愛らしく、綺麗な話の印象の強い話でも、原作では全く話が違うものも沢山あって読んでいて楽しかったし、原作のお話を知ることに関心が湧きました。

Bさん) グリム童話を学んで思った事は、最初グリム童話を作った人は女の人だと思っていました。でも、学んでいくうちにグリム兄弟がいることを知り、びっくりしました。今では沢山のグリム童話を知ることができ、子供たちにも沢山教えてあげたいと思うようになりました。機会があればまた学びたいです。よく知っていた昔話を、グリム童話として読む楽しさに気づいてもらえたことは収穫であった。

10. 参考文献および注

※原著第7版の完訳グリム童話集は、小学館（高橋健二訳『完訳グリム童話集』1～3、普及版1～5もあり）、筑摩書房（野村滋訳『完訳グリム童話集』1～7決定版、ちくま文庫版もあり）、講談社（池田香代子訳『完訳クラシックグリム童話』）など各社から出版されているが、手軽に読める版として、講談社文芸文庫版を利用した。

※大阪府立図書館WebOPACでは、筑摩書房版（文庫とも）・講談社版の『完訳クラシックグリム童話』については、全話の名称が内容細目に掲示されている。名称比較の際に使用させていただいた。

—参考文献—

・完訳グリム童話集1～3 (グリム兄弟・池田香代子訳・講談社文芸文庫) 第7版

・初版グリム童話集1～4 (吉原高志、吉原素子訳・白水社)

・完訳ペロー童話集 (新倉朗子訳・岩波文庫赤5 1 3-1)

※本学付属図書館所蔵の学生と読んだグリム童話

・グリム童話1～3 (グリム兄弟・相良守峯訳・1966年初版・岩波書店・上20話、中19話、下21話〈全60話〉)

・グリム童話集上下 (佐々木田鶴子・岩波少年文庫・2007年初版・上25話、下25話〈全50話〉)

・子どもに語るグリムの童話1～6 (佐々木梨代子、野村滋訳・1990年初版～1993年・こぐま社・1巻12話、2巻11話、3巻10話、4巻11話、5巻10話、6巻10話〈全64話〉)

・立原えりかのグリム童話 (文：立原えりか・絵：杉浦範茂、尼子騷兵衛、田村セツコ、はせがわゆうじ、宇野亜喜良、黒井健、東逸子、あおきひろえ、青山みるく、木月すみよし、小倉あん子、葉祥明、どいまき、永田萌、雨宮尚子、飯野和好、牧野鈴子、伊藤秀男、北見葉胡、長田恵子、エム ナマエ、ささめやゆき、北見隆、きたのじゅんこ、長谷川義史・2015年初版・朝日学生新聞社・全25話)

※児童書として出版されているグリム童話のうち、本学図書館でさらに『岩波世界児童文学集』11に「グリム童話選」(相良守峯訳・岩波書店・1993年〈23編〉)があったので、追加資料とした。

〈注1〉「保育者養成と絵本研究の方法」(『夙川学院短期大学 教育実践研究紀要』第13号〔2018年度〕・2019年3月)

〈注2〉松岡亨子『昔話を絵本にすること——ホフマンの『七わのからす』をめぐって——』(東京子ども図書館・1981年のちに『昔話絵本を考える』と改題、日本エディタースクール出版部より1985年刊)

・小澤俊夫『昔ばなしとは何か』(大和書房・1983年)

・松井直「昔話絵本の魅力」(『絵本を読む』・日本エディタースクール出版部・1983年)

・清水美千子『絵本の世界(二)』(明治図書出版・1985年)

・松井友『私の絵本体験』(大和書房・1986年)

・松井直『絵本のよろこび』(NHK出版・2003年)

・三原幸久「はじまり、はじまり～」(小長谷有紀編

『大きなかぶ』はなぜ抜けた?—謎とき 世界の民話—講談社現代新書1848・2006年)

・中村稔子「絵本の本」(福音館書店・2009年初版・第四章 昔話について、第五章 絵本になった昔話)。

・生田美秋・石井光恵・藤本朝巳「ベーシック絵本入門」(ミネルヴァ書房・2013年初版・第4章絵本の種類(1) —物語絵本17 昔話絵本・童話絵本)。

・浅木尚実編著「絵本から学ぶ子どもの文化」(今田由香「子どもの文化財の歴史的背景」、浅木尚実「小学校教育へのつながり1～3」・同文書院・2015年初版)

・「小澤俊夫さんインタビュー 昔話って、なんでしょう?」(momo vol.18 絵本と昔話特集号・2018年12月)など。

〈注3〉「絵本選びと読み聞かせのために コラム2 昔話絵本を選ぶには」(岩波書店・2011年)。

〈注4〉拙稿「小学校・国語教科書「ことば」教材の研究—第1学年・第2学年を中心にして—」(『夙川学院短期大学 教育実践研究紀要』第12号〔2017年度〕・2018年3月)参照。

〈注5〉〈注3〉に同じ。

〈注6〉ii「保育所保育指針」

本文中に下線を引いた箇所など「幼稚園教育要領」と重なる部分が多いが、

「1 乳児保育に関わるねらい及び内容」(2)ねらいの「ウ 身近なものと関わり感性が育つ」(イ)内容に「① 身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ」と、身近な生活の確認となるような「赤ちゃん絵本」の働きを示唆する記述がある。

また、「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」の「言葉」(イ)内容には「④絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ」と「紙芝居」にも言及がある。絵本同様に昔話が活用されやすい素材である。これら引用の記述は、iii「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」とも共通する。

ピアスーパーバイザーからのコメント

保育者養成の中で、絵本の知識を得ておくことは、とても大切なことです。また、その読み聞かせの方法を学んでおくことも必要です。本稿では、国語分野の研究者の視点からグリム童話を分析されています。保育者として、読み聞かせの保育技術を向上させることも大切ですが、絵本を精読し、内容を深く読み取る力をつけることも大事なことです。

このゼミを受講した学生は、ここで学んだことを、今後の保育実践にいかしていくことでしょう。本稿における知見が、多くの保育者の方や保育者養成校の先生方にご理解いただければと思います。(担当：園田雪恵)